

研究成果 3,000 字程度 (別紙添付可)	2017 年度に引き続き、今年度も月に 1 回（主に第 3 月曜日 13:00～15:00）「ピアサポ Park OKINAWA」の名前で、ピアサポートに興味関心のある人らが、月に 1 度（定期的に）気軽に集まり、交流や情報交換ができる公園みたいな場づくりを行った。参加者は、平均 12 名前後（7～25 名）と昨年度より新規利用者も増え参加者数が増えた。精神障がいを持つ者が主であり、その他にも支援者・家族・身体障がい・発達障がいを持つ者、学生などの参加があった。昨年度に比べ障がいを持つ当事者の参加が多くなった。内容は、参加者同士の交流や情報・意見交換を中心に対話を行った。また、2 月には先駆的な取り組みを学ぶ機会としてリカバリーカレッジ勉強会を開催した。 ＊リカバリーカレッジ：リカバリーについて共に学び合う場。精神的つらさ（精神健康の困難）を体験した人の生きた経験や知恵と、専門職と呼ばれる精神健康に関する知識を学んできた人たちが、それぞれの専門性、経験、知恵や知識を持ち寄り、学び合いの場を共に作り上げている。それぞれがものの見方や経験を持ち寄り、「共に」学びあうことを大切に、さまざまな経験や知恵が持ち寄られることで、より豊かで新たな可能性が生まれるという考えに基づいている。米国・英国から世界に広がり、日本でも順々に広がりをみせている。 リカバリーカレッジ勉強会では、県外よりリカバリーカレッジの実践に精力的に取り組んでいる当事者と研究者を講師に招き、リカバリーカレッジを知り学ぶ機会を 2 日間で述べ 55 名の参加者とともにつくることができた。参加者より、沖縄でもリカバリーカレッジを開校してほしい。当事者の立場と支援者の立場が互いに支え合える可能性や希望を感じた。色んなひとと話して一緒につくるって素敵だと思いました。などの感想があった。経験をうい学び合うことの効果や可能性を参加者とともに学び合う機会をつくることができた。 ピアサポートや当事者活動が低迷している県内において、経験交流を大切に集まる場をつくることで、交流・情報交換が生まれ、つながりや学び合う場作りやその効果を確認することができた。12 月には参加者の当事者より交流会（忘年会）をやろうとの発案と企画により交流会（忘年会）を行うなど集団としても成熟しつつある。また、沖縄県が行うピアサポーター養成研修のアフターフォローの場としても活用されて機能している。今後のピアサポートや当事者活動基盤作り、障がいの有無や所属・立場を超えたコミュニティづくりへ影響（前進）を与えることができた。精神障がい者を取り巻く長期入院や地域の中での偏見などの課題に対しても、当取り組みがひとつの糸口になる可能性も高いと考える。当取り組みを継続することで研究・検証・実践していきたい。
--	--